

第6回 京都市駅周辺等にふさわしい都市機能検討委員会 摘録

○日 時 平成26年3月20日（木曜日） 午後3時から午後5時まで

○場 所 ホテルセントノーム京都 2階 平安東の間

○委員（敬称略，五十音順）

青山 吉隆（座長）	京都大学名誉教授
大庭 哲治	京都大学大学院工学研究科助教
小浦 久子	大阪大学大学院工学研究科准教授
西嶋 淳	大阪商業大学経済学部教授
北條 倫子	市民公募委員
山田 文	京都大学大学院法学研究科教授（欠席）

○議事内容

1 開会

- ・ 会議を公開とすることを出席委員の了解により決定
- ・ 一般傍聴者なし。

2 事務局より資料説明

- ・ 「駅周辺にふさわしい都市機能の集積のあり方（素案）」に関する市民意見募集の結果の概要について 資料1にて説明
- ・ 市民の皆様の主な御意見及び御意見に対する検討委員会の考え方（案）
資料2にて説明
- ・ 駅周辺にふさわしい都市機能の集積のあり方について（提言）（案）
資料3にて説明

3 意見交換

青山座長 資料2の検討委員会の考え方については公開するのか。

事務局 提言と同時ではないかもしれないが、ホームページに掲載する予定である。

青山座長 御意見に対し、提言に反映したものと、関係部局に連絡するとしたものがある。一目でわかるように、マトリックスで表現できないだろうか。

西嶋委員 資料3の2ページの1段落目において、この検討委員会では、京都市都市計画マスタープランに掲げられているもののうち、特に交通拠点を中心とした都市拠点の強化を図るための検討を行ったということが明示されているのは良いと思う。しかし資料3の20ページのまとめでは、たとえば3段落目の「今後の人口動向や・・・」などの居住の話を書いているが、これは京都市都市計画マスタープランにおいても前提としていた内容でもある。具体的に書くのであれば、「人口動向を注視しつつ駅周辺の見直しを進めることが求めら

れる。」といった内容を検討委員会から提言すれば良い。この書き方であれば、今まで検討委員会で考慮されていなかったというように取られてしまうのではないか。

青山座長 ここで言っている今後の人口動向や土地利用というのは、駅ないし駅周辺の地域の人口という意味である。

西嶋委員 今後の人口動向を考えながらというのは、言葉としてはそのとおりであるが、居住地の関係について、調整を図りながら進められるように提言することがこの検討委員会の立ち位置ではないか。この検討委員会では具体的な議論の対象としていないが、私としては、今後の人口動向等を注視しながら過去5回の検討委員会で意見を申し上げており、改めて将来に向けて課題であるような書き方をするのはいかなものかと思った。

事務局 人口減少は予測であるなか、今後の動向も注視しながら進める必要があるという意図で書かせていただいた。

青山座長 駅から離れた地域は今回検討しなかったという文言を入れる方が良いのではないか。

事務局 確かに具体的な検討はしていないが、エコ・コンパクトな都市構造の概念の中で、その部分も押えたうえで検討していただいたと考えている。

小浦委員 多くの御意見をいただいたが、パブリックコメント冊子から提言で変えた文章があまりないように見受けられる。批判を受けないだろうか。

北條委員 追記されている部分はあるが、文章の追記だけではあまりわからないのではないか。

小浦委員 委員会の考え方としてこれで良いか違和感がある箇所もある。

大庭委員 見解案に温度差があると思う。公に出て、チェックもされるだろうから、検討委員会として、ここに反映されていると言えた方が良いのではないか。

西嶋委員 提言には書かないとしても、「こういう風に考えていました。」とは示すべきであるように思う。他の施策まで見直すのかと誤解されていた部分は、検討委員会の位置付けをはっきり書くことにより、お答えすることになる。都市計画で対応できないものについては、事務局を通じて担当部署に伝えるのが検討委員会の立場であろう。都市計画では、土地利用の誘導を行うが、現実の経済において意図した効果を生まない場合もある。それを踏まえた上で、載せる載せないについての考え方を整理しないといけない。個々の意見が提言のどこに対応しているかの情報を出すかは議論があると思う。

小浦委員 パブリックコメント冊子の1ページ目の最後の文章の「京都市では、検討委員会からの提言を受けて、平成26年度に用途地域等の都市計画の見直しを

行う予定です。」を受けて、「あり方」に対する意見だけではなく、膨大な意見が出てきたと認識している。それをどう整理するかについて、考えることが必要ではないか。

青山座長 検討委員会からの「あり方」を基に見直しが行われ、今後、具体的なものになる可能性があるわけだから、それを踏まえた見解とするべきではないか。たとえば、資料2の13ページの「駅周辺にふさわしい都市機能の集積のあり方に関する御意見」において、多くの意見が出ているわけだが、その多くは「京都市に提言したい。」というのではなく、むしろ「見直しに反映したい。」となるのではないか。「提言したい。」は本当に提言に反映したところだけにすべきではないか。

小浦委員 提言に反映しないといけないうところをもう少しチェックする必要があると思う。現在はあまり反映されていないように見受けられることから、「提言したい。」という答えでは誤解を与える気がする。

青山座長 「次年度以降の見直しに」となるのではないか。

事務局 実際の見直しは次年度以降になるので、そこに反映するものは「反映する。」という書き方に分けた。しかし、まだ「提言する。」となっているところも見受けられることから修正したい。

西嶋委員 資料2の13ページ、資料3では18から19ページの「日常の生活を支える地域」については、パブリックコメントの前から検討委員会では議論はしていたが、あえて概括的な話にとどめていた。この書き方だと、「考えていなかったが、こう考えます。」となってしまう。そうすると、これまで検討しなかったと誤解されるし、どう反映したかも明確にならないのではないか。

小浦委員 これは資料3の17ページに書かれている「日常の生活を支える地域のうち、」に入る。ここは、「駅周辺にふさわしい都市機能の中で検討を行ってきました。この実現に向けては次年度の課題として申し送ります。」というような見解となるべきであろう。「コンビニ」という表現は提示していないが、検討委員会としては議論してきた。

西嶋委員 実際、資料3の15ページの「コンビニができない駅周辺などあるのか。」というように認識されている方もおられるわけであるから、そこは前提として書けば良い。やったかのごとく振舞う必要はないし、検討していないところは検討していないと言えば良い。

小浦委員 なんでも提言します、参考にしますという言い方ではなく、これは提言のうち、どこに記載されているということを伝えることも重要だろう。

事務局 大きな考え方でまとめているので、それを細かく砕いた意見も出ており、関係していないわけではないので、どう答えるべきか悩ましいところである。

西嶋委員 「委員会でも検討してきたが、ちゃんと次年度に引継いでもらうようにしま

す。」というようにすれば良いのではないか。

小浦委員 「次年度の検討の中で」とすれば良いだろう。

北條委員 [資料2]の24ページの8番で帷子ノ辻駅と宝ヶ池駅が地域複合拠点にならないかとの意見が出ているが、その意見に対し、乗降客数2万人という数字を基に検討をしたと述べるにとどまり、かつ[資料3]の22ページの図でも地域複合拠点として扱っていない。これでは、今後候補駅として検討されないように見えてしまう。今後、地域複合拠点になるかどうかは、京都市が検討するわけだから、御意見の中で挙げられた駅を図示するなどの工夫が必要ではないだろうか。

小浦委員 結果的には乗降客数を基に分類していることから、それはどこかで明確にしておくべきだろう。本日の議論は、既存のネットワーク施設の利用状況をベースに構造化してきたもので、それに大学やものづくり拠点などの都市の活力・魅力につながる視点が加えられたものである。そのような検討の手順によって複雑化してしまったのかもしれない。

青山座長 そこまでは、検討をさかのぼれないだろう。

事務局 御意見いただいた内容で、事務局で修正していきたい。

小浦委員 基本的には[資料3]の20ページの書き方を丁寧にとすると、まとまるのではないか。

大庭委員 [資料2]における意見の番号や順番にはルールがあるのか。

事務局 基本的には集約に関する意見をまとめて反映したい。ただ、様々な意見も頂いているので、一概にそうならないかもしれない。そういった視点でまとめるようにしたい。

大庭委員 御意見に対してはすべて回答しているのか。集約している部分もあるが。

事務局 文言の違い程度であればまとめているところはあるが、具体的にはすべて回答するようにしている。

西嶋委員 [資料2]の9ページの7、8番の御意見については、例示としてあげたものに対して、個別・具体の話であると誤解されているように思う。地域複合拠点として求められる都市機能を集約する共通事項を提示したに過ぎない。「検討の参考にする。」と書くと、画一的に考えていたと取られるのではないか。もう少し丁寧に、「検討委員会としての考え方はこうであった。」ということを確認にしたうえで、「個別の話は立ち入らずに次年度以降にしっかり議論していただくように整理してきた。」というような内容で、見解を考えていただきたい。

- 小浦委員 資料2の9ページ、10番の意見は委員会で答える内容ではないと思う。
また、多く書いてあるものや、書くべきことが書いていないものもあり、アンバランスではないか。
- 事務局 検討委員会の見解であるが、京都市の事業にかかわることは事業の内容を書いておいた方が良くと考え、書いているところもある。
- 西嶋委員 あくまでも検討委員会が受け止め、整理をしたものを正しく京都市に伝える。
その義務を負うのが委員会の役割だと思う。
- 事務局 そういった方向性で書きなোস。
- 小浦委員 もう一度、全部チェックさせていただく方が良いのではないか。
- 青山座長 パーソントリップについてはどこかに記述されているのか。
- 事務局 資料3の11ページの上に記述してある。
- 北條委員 資料2の9ページ、13番の乗降客数2万人の根拠について説明しきれていないのではないか。どう答えるべきだろうか。
- 小浦委員 一度、乗降客数について平均を取って分析してみたが、乗降客数の平均値を超える駅は少ない。都心駅を抜くと平均として1万人程度であった。全体の平均を取った場合について再度検討するなどしてみてもどうか。
- 北條委員 乗降客数2万人というのも、現在の交通利用を基にしたものであり、今後は変動するかもしれない。
- 青山座長 一応、候補と書いてはいるが、これを基に、まちの特性も踏まえながら、候補を選んだとしているわけである。
- 事務局 2万人の駅について、周辺の土地利用の状況も検討いただいている。1万人の駅も近くに駅がある場合は合わせて検討すべきとされている。
- 西嶋委員 これまでの検討委員会においてもそのように検討されていることであるため、そういうことで整理したら良い。
- 小浦委員 資料3の21ページと22ページの読み方だが、乗降客数2万人の駅、それと1万人以上の中から地域複合拠点が選ばれているということで良いか。
- 事務局 バスの乗降客数も見て、2万人に達しない駅も選ばれている。1万人に達しない駅は入っていない。
- 小浦委員 検討の手順をきちんと説明すればよいのではないか。
- 青山委員 資料3の21ページはいらないのではないか。
- 西嶋委員 どちらかではないか。21ページを入れるなら22ページはいらないだろう。
- 事務局 21ページはパブリックコメントに付けており、22ページ、23ページはパブリックコメントを受けて追加した。
- 事務局 資料3の20ページの書き方をどうするか。

西嶋委員 書くのは構わない。それと関連して資料2の18ページの6番の税収についての意見もあるが、都市計画マスタープランの内容そのままであればそう書けば良いが、中途半端な書き方と感じる。8番の企業努力についても、それを前提に都市計画で出来る部分を考えているわけであり、書くならそうきっちり書きたい。そういったものが実際に魅力の向上につながるかはわからないことではあるが、少なくとも、ヒト・モノ・お金・情報が円滑に動かないと地域の活性化はないと言える。だから、本社も研究所も事業所も大きな意味を持つので、魅力の一つの要素と考えているということを書くなら、きっちり書いてほしい。それを踏まえて、資料3の20ページのところも書かないといけない。私個人の立場で書くとしたら、詳しくは書かないと思うが、そういうトーンを前提に、京都の経済なり地域を捉えており、様々な京都市の施策がある中で、都市計画分野としてどのように相乗効果を上げていくかを検討してきたことから、それに対する将来的な想いを書くようなイメージはある。それで良ければ考えてみたい。

青山座長 文章は今すぐには作れないか。

小浦委員 本日の検討委員会では、各委員のトーンを共有した方が良いのではないか。

事務局 修正して意見をいただきながらまとめて行きたい。資料3の提言はある程度固めたいが、資料2の考え方はもう少し委員の考えを聞きながらまとめる必要があると感じている。素案は事務局で作るが、個々の部分は相談させていただきたい。

西嶋委員 間に合うのであれば、素案を各委員に送付のうえ、整理ができれば良いと思う。

青山座長 資料3の提言から21ページを外すということでどうか。

事務局 提言の21ページは外すようにする。

青山座長 終わりの文章だが、委員会が市に提言するが、最後の2行として「次年度以降の見直しに活かしてほしい。」という形になどにしたい。

大庭委員 資料3の23ページ、参考のタイトル（都市の魅力や活力を高める視点）は他と合わせ（都市の活力や魅力を高める視点）としたほうが良いと思う。

小浦委員 資料3の23ページが22ページに反映するわけだから、順序が逆ではないか。

青山座長 資料3の22ページ、23ページ合わせて一つという考え方であるため、これで良いと思う。

小浦委員 資料3の23ページに書いている拠点はすべて対象になっているということか。

北條委員 資料3の23ページ以外の本文の文章の中に、京都市都市計画マスタープラ

ンに記載がある地域エリア周辺の駅を対象としている旨の記述はあるか。

事務局 記載していないため、記載する。

青山委員 時間的に今後の作業の流れはどうなるのか。

事務局 修正すべき点の確認はこの会議でさせていただきたい。現在の検討委員会の委員の任期が今年度までなので、提言については今年度中に取りまとめて頂きたいと考えている。市民意見の取りまとめについては、来週中にできるところまで進めるが、修正があり4月にかかることも考えられるため、4月に入っても、修正の内容の御確認をお願いしたい。

西嶋委員 資料3の20ページについてであるが、冒頭に方向性について検討を行っているのに、最後に繰り返すようなところがある。即地的な課題等は次年度以降に確実に伝達されていくということを書けば良いのではないか。「長期的な視点で検討することが求められる。」という抽象的な書き方は無くしてしまえば良いと思う。このメンバーによる検討委員会は終わりでも、検討は継続されるわけで、ここで詳しく書いても今後どう検討されるかはわからないし、次年度以降の制約になってもいけない。一つの問題提起があり、これまで検討を進め、22ページと23ページに検討したものがある。

事務局 次年度に伝えるというような内容については、青山座長から御意見があったように、「おわりに」の後に、付け加えるかたちでも良いか。

西嶋委員 「活用についても検討されることを期待する。」という文言にとどめて、3段落目は外せば良いのではないか。

事務局 それでは、3段落目は無くしてしまうということで良いか。

西嶋委員 2段落目のところで書いてあるため、基本的には無くして良いと思う。

事務局 4段落目はこのまま置いておくのか、抜くのかどのようにすれば良いか。

西嶋委員 「おわりに」に持って行くことで良いと思う。

事務局 北條委員からの指摘は、資料3の19ページの魅力づくり拠点の中で、マスタープランの位置付けがあるという部分を追加する。

青山委員 「駅のない地域をこれからなんとかしなければいけない。」という意見はどこに入れているか。

事務局 資料2の25ページのその他のところで意見をまとめている。

小浦委員 資料2の25ページから2ページにまとめたのは、みんなが気にしたところであるからだと思う。地域性の話や、歴史などの場所の特性、居住環境やいくつかの論点がある。資料3の20ページ1段落目は「市内の約130の駅について、駅と駅周辺のまちの特性を踏まえながら」と書いているが、踏まえていなくて、「市民の暮らしを支える視点から、広域拠点、地域複合拠点、生活を支えている地域という3つのタイプをとらえている。」わけで、そこにおけるあり方を書いている。それを実現するためには「周辺の地域特性とか

場所をふまえて検討することが必要である。」と書くべきではないか。1 段落目には何をやったかをきちんと書いて、「既存の鉄道ネットワークに基づくエコ・コンパクトな都市構造を目指して、ひとつは市民の暮らしを支える視点が広域拠点、地域複合拠点、日常の生活を支える地域、そして都市の魅力や活力を高める視点から、マスタープランに基づく拠点という考え方で駅のある方を出した。それを実際に進めて行くに当たっては、それぞれの地域特性や歴史や居住環境を踏まえて適切な取組をする必要がある。」という話が一つと、それに当たっては2 段落目にあるような「それをするにあたって都市計画的なしくみがある。」という話が一つと、今回は既存の交通ネットワークと書いてあるから、「そこでは駅のないエリアがあって、それを含めたエコ・コンパクトな構造が次の課題としてある。」という感じでまとめれば良いのではないか。

青山座長 P 20 の初めの段落を少し増やして、3 段落目は少し減らす。資料1 の4 ページの7 番にも少し書いてある。

小浦委員 これをカバーできるように書いておくの良い。考え方を書くときの指標にもなる。居住環境の配慮は、市民意見として結構出ている。まちの特性と周辺の居住状況を踏まえ、駅という都市機能型の土地利用と周辺の居住環境との調和として、1 つは地域特性を踏まえて、駅周辺の都市機能の集積のあり方と整備の仕方を考えるのと、そのときに、その周りの居住状況との整合性を考えるという問題がある。それと、既存ネットワークから外れるところについては、それを含めたエコ・コンパクトな構造が次の課題に残るということと、それらに対する都市計画の対応に当たっては色々な課題があるということくらいではないか。

西嶋委員 この検討委員会の中では、交通ネットワークがあまり便利ではない地域も検討していた。全く検討してなくて最初から「今後の課題」に棚上げされているとはとらえられるような書き方にはしてほしくない。

小浦委員 その解決として、今後それらの構造化についてどう取込んでいくかは、次の課題として残っている。

青山座長 20 ページだけ、早急に修正してメールで送っていただきたい。あとは私の判断としたい。

事務局 各委員に確認いただいたうえで、最終的には座長に内容を一任させて頂くこととする。

4 終了

- ・会議の摘録は前回同様、事務局が作成し公開するというので、委員の了解を得た。
- ・提言については、修正後の内容を各委員が確認した後、青山座長から京都市に対して

提出いただくこととし、その際に、都合が良ければ他の委員も出席いただくこととする。

以上